

法学部

准教授 森住 信人

多くの皆さんが、大学で第2外国語を学ぶことと思います。専修大学では、第2外国語として様々な言語を用意しておりますが、残念ながらラテン語はありません。というのも、現在、ラテン語を母国語として使用する国・民族がないというのが大きな理由でしょう。一方で、欧米の言語の多くがラテン語から派生・発展した言語であることは聞いたことがありますよね。皆さんはこれまで英語を学んできたと思いますが、大学でフランス語やドイツ語、スペイン語など欧米の言語を学ぶと、それぞれに似た言葉があることに気づけます。もちろん、ヨーロッパの近隣諸国ですので、言語が伝播したということもあるでしょう。ですが、それよりも元となった言語であるラテン語が同じであることがより大きな理由かと思われまます。

だからといって、「よし、ラテン語を勉強するゾ！」という方はあまりおられないでしょうし、本学にはラテン語の講義がありません。それにラテン語は難しいらしいですね。

そこで、本書の紹介です。数年前にフラリと図書館に入って新書の背表紙をチラチラと眺め歩いていたところ、『ラテン語の世界』と題する本書が目についたので読んでみました。著者である小林標先生は、ラテン語初心者に興味を持てるように、現代にまで残るラテン語の影響から、簡単な文法、歴史や文学作品まで、軽やかな文体で紹介してくれています。軽い気持ちで手に取って、サラリと読め、トリビア的知識も得られる、本書はそんなお得な本です。真剣に読むことだけが読書ではないくらいの気持ちで、本書を手に取ってみて下さいね。

『ラテン語の世界：ローマ
が残した無限の遺産』
(中公新書)小林標
(2006,中央公論新社)

【所蔵情報】

本館	資料ID	700924236
	請求記号	X/081/C64/1833
神田分館 Knowledge Base 展示中	資料ID	700917552
	請求記号	X/081/C64/1833/

